

令和３年度 串間市立金谷小学校 学校関係者評価書

学校経営ビジョン：豊かな心をもち、自ら考え、正しく判断し、進んで実践するたくましい児童の育成

【評価】 ４：よい、３：だいたいよい、２：もう少し、１：よくない

重点目標	評 価 項 目	平均（４点満点）						考察及び改善策	学校関係者評価委員の意見
		児童	保護者	評価委員	職員	平均	総合		
危機回避能力と豊かな心の育成【徳】	① 学校は、避難訓練、集団下校等をととして、危機回避能力の育成に努めている。	3.5	4.0	4.0	3.2	3.7	3.5	<p>総合評価は、4点満点中「3.5」で、達成率は88％である。</p> <p>①の「危機回避能力の育成」については、「3.7」と高い評価を得た。これは、年間に6回計画された避難訓練において、児童・職員一人一人が危機意識を持ちながら真剣に取り組んできた成果だと考えられる。警察署や消防署の署員の方々からも称賛の声をいただいた。</p> <p>②と③に関する職員の評価が低い。これは、他の評価者よりも自らを厳しく評価し、より高みを目指しているためと考えられる。</p> <p>②に関しては、縦割り清掃や学校行事等を通して児童同士の関わりの中で思いやりの心を育てる活動に数多く取り組んできた。</p> <p>③に関しては、登校時や下校時の挨拶はよいものの、校内での友達同士のあいさつや、廊下での会釈に課題が見られる。また、片付けの習慣も十分身に付いているとはいえないことから低い評価になったと考えられる。</p> <p>全職員で共通理解を図りながら、「金谷っ子の当たり前」を使った指導に取り組む。</p>	<p>①に関しては、年6回の避難訓練を通して児童の危機意識が高まっていると思う。一方で、下校時にぶざけ合いながら道路へはみ出す姿をたまに見かけることがあるので、今後も継続的な安全指導を行ってみたい。</p> <p>②に関しては、児童が互いに立場を理解し合いながら縦割り活動などに取り組んでいる様子が見られ、思いやりの心が育ってきていると思われる。</p> <p>③に関しては、学校外でのあいさつもよくできており、地域の方々からも称賛の声が聞かれている。言葉づかいに関しては、相手を思いやる気持ちをもちて話すという指導を、学校と家庭が連携して取り組む必要があると思う。</p>
	② 学校は、命を大切にする教育や人権教育、異学年交流をととして、思いやりの心の育成に努めている。	3.3	3.9	4.0	3.0	3.6			
	③ 学校は、「挨拶・返事・片付け・言葉づかい」等の基本的な生活習慣の定着に努めている。	3.0	3.9	4.0	2.4	3.3			
たくましい体の育成【体】	④ 学校は、体育の授業や「体力向上」の時間等をととして、体力向上に努めている。	3.4	3.4	3.3	2.8	3.2	3.3	<p>総合評価は、4点満点中「3.3」で、達成率は83％である。</p> <p>④に関する評価平均は「3.2」だが、職員の評価が「2.8」と低い。体育の授業や朝の時間、運動会等の行事を通して、全校で年間を通しての体力向上に努めてきた。その結果、体力テストにおいてA判定の児童が21％、D・E判定の児童が昨年度に比べ減少するという結果となった。しかし、柔軟性及び持久力は全国平均よりもほぼ全ての学年において下回る結果であった。これについては、今後体育の時間や体力向上の時間を中心に重点的に取り組み、全体的な底上げを図っていく。</p> <p>⑤に関しては、養護教諭を中心に、学級担任と連携して食育や健康指導に関するＴ・Ｔの授業を行ったり、保護者へ児童の健康状況を示した文書を出したりするなどして啓発や理解に努めた。次年度も、継続して健康な生活習慣の定着に努めていきたい。</p>	<p>④に関しては、体育の授業や体力向上の時間の取組などで体力向上が見られており、A判定が増えていることは成果である。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、子どもたちの外遊びが減少し、そのことが体力低下の要因の一つになっていると思われる。</p> <p>⑤に関しては、学校が、子どもたちの健康面に関する様子について定期的に家庭に知らせてくれている。共働きの家庭が増加し、子どもたちを治療に連れていくことが難しくなっている昨今ではあるが、今後も粘り強く働きかけを行い、健康な生活習慣の定着を図ってみたい。</p>
	⑤ 学校は、食育指導や健康指導をととして、健康な生活習慣の定着に努めている。	3.3	3.8	3.7	3.0	3.4			
確かな学力の向上【知】	⑥ 学校は、「分かる・できる」授業をととして、学力の向上に努めている。	3.5	3.8	4.0	2.9	3.5	3.4	<p>総合評価は、4点満点中「3.4」で、達成率は85％である。</p> <p>⑥については、児童・保護者の評価に対して、職員の評価が「2.9」と低い。県の「4＋4のチェックポイント」を意識した授業改善だけでなく、タブレットＰＣを活用した学習を行うことにより、児童が「分かる・できる」授業づくりに取り組んできた。更に、基礎・基本の定着を図るために、朝の時間や授業の習熟の時間に、一人一人の児童に対して、きめ細やかな指導を行うとともに、学力テストの過去問にも取り組ませ、全体の底上げを図った。</p> <p>⑦については、作品応募を通して、絵画や俳句など多くの作品が優秀な賞に選ばれた。今後も積極的に作品募集に取り組み、児童の自信や意欲につながら表現力の育成に努めていきたい。</p> <p>⑧については、全児童の６８％が2学期までに本年度の読書量目標を達成している。3学期末までには、ほぼ全ての児童が目標を達成すると思われる。一方で、読書量が少ない児童も見られるので、学級担任による働きかけとともに、保護者に対して、懇談会などでノーメディアの協力を呼び掛けながら、読書の習慣を身に付けさせていきたい。</p>	<p>⑥に関しては、授業の中で、子どもたち一人一人に丁寧な指導を行ってもらっている。また、タブレットの活用も始まっているようなので、使い方の指導も含め学力向上に向け効果的に活用していつて欲しい。</p> <p>⑦に関しては、作品募集への積極的な取組が見られ、子どもたちの学習意欲の向上にもつながると思う。これから新聞等で子どもたちの名前が見られるように継続して取り組んでもらいたい。</p> <p>⑧に関しては、学校では読書に取り組んでいるようだが、家庭では読む子と読まない子の差が激しいように思う。また、コロナ禍の状況を見ると、もっと家庭での読書量が増えてほしいと思う。今後は、学校と家庭が連携しながら、本好きの子どもたちを増やしていく必要があると思う。</p>
	⑦ 学校は、集会における発表や作品応募をととして、表現力の育成に努めている。	2.9	3.9	4.0	3.0	3.5			
	⑧ 学校は、読書の時間や「家読」をととして、読書の習慣化に努めている。	3.2	3.5	3.7	2.9	3.3			
開かれた学校づくりの推進	⑨ 学校は、くしま学、総合的な学習の時間をととして、「くしま愛」の育成に努めている。	3.8	3.6	4.0	2.6	3.5	3.4	<p>総合評価は、4点満点中「3.4」で、達成率は85％である。</p> <p>⑨⑩は、児童・保護者においては高評価が得られたものの、職員は「2.6」と低評価である。</p> <p>⑨に関しては、くしま学の学習を進める中で、体験的な活動が不足していることが要因として考えられる。今後、他教科との関連を意識し校外での体験活動を積極的に取り入れ、「くしま愛」の育成に努めていきたい。</p> <p>⑩に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部の人材を十分に活用することができなかった。次年度は、総合的な学習の時間や行事等を通して、地域人材を活用し開かれた学校づくりに努めたい。</p> <p>⑪に関しては、「学校だより」を発行して地域の回覧板で見たいだいたり、学校のＨＰを活用したりして広報活動に努めた。今後更に、ＨＰの更新頻度を増やすなどして、一層の広報活動に努めていきたい。</p>	<p>⑨に関しては、コロナ禍という制限がある中で工夫しながら活動ができていると思う。「カルタ大会」をはじめ、郷土愛を育む取組は、他の地域の方々からも高い評価を受けているので、これからも体験活動を取り入れた授業に積極的に取り組んでほしい。</p> <p>⑩に関しては、現在のようなコロナ禍での地域人材活用には制限があり難しいと思うが、状況が好転してきた際には、是非、積極的な活用を図ってほしい。</p> <p>⑪に関しては、学校新聞やＨＰは学校での児童の様子を知る貴重な機会なので、今後も積極的に広報活動に努めて欲しい。</p>
	⑩ 学校は、授業に「地域の内容」や「外部の人材」活用をととして、開かれた学校づくりに努めている。	3.3	3.6	3.7	2.6	3.3			
	⑪ 学校は、学校だよりや学校WEBをととして、広報活動に努めている。		3.5	3.7	3.0	3.4			